

千住消防団 だより

編集・発行
千住消防団編集委員会
印刷：小竹印刷株式会社

令和6年 団始式挙行

新年1月21日（日）14時から15時15分まで、千住消防団始式が、東京芸術センター21階「天空劇場」において厳粛に挙行されました。

染症に移行したことから、昨年まで自粛させていただいていた町会長や自治会長の列席も再開し、久しぶりに数多くのご来賓をお迎えしての式典となりました。



式の冒頭には、1月1日に発生した能登半島地震で亡くなられた方への黙とうを行いました。

式の中では、消防総監の授与をはじめ、令和5年中の成績優良団員の表彰等を実施しました。また、新入団員と併せて帝京科学大学柔道部の学生団員の紹介も行い、頼もしくも初々しい姿を来場者に披露することができました。

式では、新年を迎えて心新たに使命感に燃える千住消防団員の士気を更に高め、併せて今後関係機関や地域の皆様の消防団へのご理解とご協力を深めたいと、この目的を十分に達成することが出来ました。

令和5年度 総合震災消防訓練の実施

令和5年11月25日（土）総合震災消防訓練が実施されました。今年度は、震災時における大規模災害への長時間対応を主眼とし、千住消防団受託区域の各訓練会場において多数の団員が訓練に参加しました。

実動訓練の会場は3か所です。①千住鹿田町防災ひろばでは延焼阻止線設定訓練及び破壊を伴う救出救助訓練を、②柳原2丁目荒川河川敷では可搬ポンプを複数台で継ぎつた遠距離搬送水訓練を、③田島ルーフィング小台工場ではフォークリフトを活用した瓦礫除去訓練を、それぞれ実施しました。今後発生しうる首都直下地震の際に、地域において発生が想定される災害に対応した実効性ある訓練を実施することが出来ました。



帝京科学大学において防災訓練を実施

令和5年12月1日（金）足立区千住桜木2-1-1 帝京科学大学千住キャンパスにおいて、大学の職員や学生を対象とした防災訓練が実施されました。

防災訓練には、帝京科学大学柔道部の学生消防団員5名が、訓練用消火器を使った初期消火訓練の指導者として参加することになり、まちかど防災訓練車による放水訓練を実施しました。



千住消防団年末年始消防特別警戒を実施

令和5年12月1日（金）から令和6年1月3日（水）にかけて、千住消防団受託区域全域で年末年始消防特別警戒に伴う巡回警戒、初詣警戒等を実施しました。



第六分団長 就任挨拶



第六分団長
成田 一司

令和5年10月1日付で、第六分団分団長に就任致しました。地域の安全と安心を守るために、これまでの第六分団の伝統を引き継ぎ、消防団活動に勤める覚悟です。

近年、消防団組織にも人手不足や高齢化などの問題も御座います。今後も団員確保に努めながら、自治体や地域のかかわらない災害に備え互いに協力をして、安全な街を築いていくことが重要だと考えます。いざという時のために消防団員として、これからも全力をつくしてまいりますので、皆様のご指導ご協力をよろしくお願い致します。

新入団員からの挨拶



6分団へ新入団の萩原 穂乃花です。よろしくお願ひします。

なので分からない事が沢山あるのでご指導お願いします。



幹部コラム

千住消防団長 聖 和良

能登半島で地震発生、輪島市で大規模な火災、津波被害、元日の夕方に神戸市のホテルで、このニュースを知りました。

阪神淡路大震災が発生してから29年、神戸に旅行に来ていて、このような大規模な地震災害が起これば、消防団長として何をすべきかと考えさせられました。30年以内に首都直下型地震の発生が危惧されていることは、消防署と連携して、消防団員の技術向上訓練、メンタリティーの強化に努力を注ぎたいと考えています。

そして、茨山の防災リーダーを育成して、町会、事業所の防災訓練の指導に当たり、大規模な災害が発生しても被害を最小限に抑えられるようにする事が、我々消防団員の任務、そして使命だと考えています。しかしながら今の消防団員は、高齢化に直面しています。若い団員の確保が課題としてあります。現状は、事業所、町会に説明して、大規模災害が起きたら我々が自分達で守る消防団員の育成が、私の使命だと考えています。

最後に消防団員の皆様、健康に留意し体力、知力を鍛え、学業、仕事、そして大変だけれど楽しい消防団活動を通して張りましよう。



編集後記

第五分団 団員 西本 隆治

令和6年は年明け早々、元日に能登半島地震、2日は羽田空港での炎上事故と、衝撃的なニュースで始まりました。

能登半島地震では、甚大な被害を受ける中、地元消防団員の活躍も目になりました。羽田空港での炎上事故では、旅客機から乗客・乗員全員が無事に脱出し世界中から「奇跡の脱出劇」として称賛され、日頃の訓練がいかに大切に改めて考えさせられました。私達も日頃から訓練に励み、災害時に備え、地域と連携、密着し消防団活動に努めていきたいと思います。

また、人員確保が難しい中、若い世代の割合も減っています。引き続き消防団活動が続けられる為にも、特に若い世代の人員確保を目指し、募集活動にも力を入れていきたいと思います。

分団だより

第四分団 部長 田中 栄

令和6年元日に発生した能登半島での大地震と2日の日航機と海上保安庁の航空機の衝突炎上事故でお亡くなりになられた方々にお悔やみを申し上げます。被災された皆様ならびにご家族の皆様にも心よりお見舞い申し上げます。

今回の能登半島地震を振り返って、我々の住む地域でも対岸の火事のように思っていた災害が現実になってしまいがちかもしれません。我々消防団は火災や自然災害がいつ発生しても対応できるよう、団員の一人一人の技術の向上と地域の方々と連携し災害に強い町作りが出来ればと思っています。しかしながら、各分団のいずれも高齢化して団員数が減ってきているのが現状です。一人でも多くの消防団員を確保出来るようご協力をいただければと思います。